

院内での普及啓発活動のあり方に関する研究

研究分担者 柴田 尚明 和歌山県立医科大学救急集中治療医学講座 助教

研究要旨：

院内で臓器移植を普及啓発するためには、院内ドナーコーディネーター(院内ドナーCo)が重要な役割を担うと考えられるが、その院内ドナーCoの養成は各施設により異なる。また、院内ドナーCoが抱える問題も各施設により様々であり、各施設の背景にも左右されると考えられる。そのため、我々の平成30年度の研究では、本邦の臓器提供施設となっている5類型施設およびその各院内ドナーCoの現状を把握するためのアンケート調査を行った。その結果を分析し、本邦の各施設の問題点および院内ドナーCoの問題点を抽出することにより、その問題点を解決するために必要なことを考察することが研究目的である。

A. 研究目的

本邦の臓器提供施設である5類型施設の問題点および院内ドナーCoが日ごろ直面している問題点を抽出すること。また、それらの問題点を解決するために必要なことを考察することが研究目的である。

B. 研究方法

平成30年度に行った5類型施設(933施設)対象のアンケート調査と5類型施設の院内ドナーCo(1866人)対象のアンケート調査の結果をそれぞれ集計した。その集計結果を基に、当院の院内ドナーCo間で検討し、本邦における移植の大きな問題点を抽出した。また、その問題点解決のために必要なことも考察した。

(倫理面への配慮)

アンケートは匿名化しており、無記名調査としている。また、倫理的配慮に関してはアンケート依頼書に明記させていただいた。

C. 研究結果

施設対象および院内ドナーCo対象のアンケートの回答率はそれぞれ28%(262/933)、22%(408/1866)であった。

まず、「施設対象のアンケート」では、脳死下/心停止下いずれにおいても、年間臓器移植件数が0件という施設がそれぞれ183/262施設(70%)、177/262施設(68%)と非常に多かった。また、院内ドナーCoが存在する施設は220/262施設(84%)と多いが、1施設当たりのCo人数が5人以下の施設が150/220施設(68%)も認められた。さらに、院内ドナーCoの養

成研修が存在する施設は83/262施設(32%)と少なかった。

次に、「院内ドナーCo対象のアンケート」では、院内ドナーCoの職種としては、看護師が257/408人(63%)と最も多く、371/408人(91%)が職歴10年以上であった。また、これまでに直接移植に関わったことがある院内ドナーCoは235/408人(58%)であり、この直接移植に関わったことのある院内ドナーCoの中で、これまでに移植で困ったことがあった人は、190/235人(81%)に認められた。困った内容としては「ドナー家族の心のケア」が96/190人(51%)と最多であった。

一方、一般市民への勉強会などを行っている施設は37/262施設(14%)と非常に少ないが、院内勉強会や院内シミュレーションを行っている施設は、122/262施設(47%)、129/262施設(49%)と、約半数に至った。

さらに、375/408人(92%)の院内ドナーCoが「移植医療は終末期医療の一選択肢としてなり得る」と考えているが、265/408人(65%)が「終末期の説明および終末期医療の選択肢提示の仕方」を移植医療の弊害とも考えていた。その他にも、「院内ドナーCoとしての経験不足」「医療者の終末期医療に対する知識不足」「自施設のスタッフ不足」を移植医療の弊害と考えている人もそれぞれ195/408人(48%)、194/408人(48%)、191/408人(47%)と約半数認められた。

D. 考察

以上のアンケート結果から、本邦における院内

での移植医療の普及啓発活動の問題点としては、以下の4点が考えられる。

- ①院内勉強会やシミュレーションを行ってはいるが、医療者の移植医療をはじめとした終末期医療に対する知識・認識がまだまだ不足している。
- ②ドナー家族の心情を考慮することにより、適切な終末期の説明および終末期医療の選択肢提示が行えていない可能性がある。
- ③施設内の院内ドナーCoをはじめとした移植医療を支えるマンパワーが不足している。
- ④年間の臓器移植が0件の施設が多いため、多くの施設にて院内ドナーCoとしての経験が不足している。

2. 実用新案登録
特になし

3. その他
特になし

E. 結論

これらの問題点を解決するためには、まずは院内ドナーCoの知識および人数の充足が必須と考えられる。院内ドナーCoの養成研修を行っている施設が非常に少ないため、まずは座学やシミュレーションを取り入れた充実した養成研修プログラムを確立することが必要不可欠と考える。また、養成研修プログラム修了し、院内ドナーCoに就任した後も定期的な継続研修プログラムを行うことで、経験不足の補填ができ、ドナー家族の心のケアや終末期医療の選択提示におけるドナー家族への接し方もよりよく改善されていくと思われる。プログラムの内容に関しては、今後の課題と考えられる。

F. 健康危険情報

G. 研究発表

1. 論文発表

本研究をはじめとした臓器移植に関する論文発表は行っていない。

2. 学会発表

本研究をはじめとした臓器移植に関する学会発表は行っていない。

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

特になし